

大雨に対応した病害対策について

本年は梅雨期の降雨が平年より非常に多く、病害が多発生しやすい条件となっています。特にイネ白葉枯病、ネギ軟腐病は注意が必要です。また、梅雨明け後の気温上昇、台風の襲来等により、病害による被害が拡大する恐れがあります。多湿条件が続いているため、他病害についても発生に注意し、速やかな防除に努めましょう。

1. 多発が予想される病害とその防除対策

1) 水稲

白葉枯病

本年は梅雨入り後に多雨が続いています。とくに集中豪雨によりイネが冠水すると白葉枯病の発生が増加するので、注意が必要です。

常習発生地域やイネの冠水した地域では、いもち病との同時防除を兼ねてプロベナゾール剤の本田処理を行い、感染防止に努めましょう。

2) ネギ（白ネギ）

軟腐病

断続的な降雨によって圃場が多湿、排水不良となり、発病しやすい条件となっているため注意が必要です。また、降雨による土壌のはね上げ、強風による葉の傷み等により株が傷つくと感染しやすくなります。予防として発病前からのプロベナゾール剤の散布を実施してください。なお、プロベナゾール剤による予防を実施している圃場でも、多雨により残効が短くなっていることが予想されるので、梅雨明けまでに2回目の処理を行ってください。

2. 留意点

- 1) 病害は施肥量の過不足により発生が拡大する場合がありますので、適正施肥に心がける。
- 2) 排水対策を十分に行う。
- 3) 薬剤は、大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照する。なお、薬剤によっては、指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、薬剤のラベルに従って使用する。

(ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/oita/>)